

(表紙)

「先祖より持伝書類之内目録

大谷九之右衛門」

2 (白紙)

① ○ 竹嶋渡海御免被

② 仰出之御奉書写シ 壱通

③ ○ 松平右衛門大夫様より被下候御状 二通

④ ○ 一二 壱通

⑤ ○ 秋元摶津守様より御口上書 二通

⑥ 加藤佐渡守様より右御同様 一通

⑦ ○ 阿倍四郎五郎様より先祖之者へ 一通

⑧ ○ 被下候御状数拾通之内 五通

⑨ ○ 御同人様江酒井讚岐守様より 一通

⑩ ○ 被進候御状 一通

⑪ ○ 御同人様江酒井讚岐守様より 一通

⑫ ○ 被進候御状 一通

⑬ ○ 御同人様より松浦河内守様へ 一通

⑭ ○ 阿倍忠右衛門様より被下御状 一通

⑮ ○ 大久保和泉守様より被下御状 三通

⑯ ○ 大久保和泉守様より被下御状 一通

⑰ ○ 公方様江御目見之節 壱通

⑱ ○ 御次第書 壱通

⑲ ○ 御公儀より御尋之筋 壱通

⑳ ○ 殿様より蒙仰候御書付 壱通

一 荒尾但馬様より米子御小仕置 御三人 <small>江</small> 之御状	壱通
一 荒尾内匠様より御小仕置御兩人 <small>江</small> 之御状	壱通
一 津田監物様より之御状	壱通
一 ○ 安養寺猪之助様より同	武通
一 ○ 山崎主馬様より同	壱通
一 ○ 蓮花寺五郎八様より同	壱通
一 ○ 長谷川正悦様より同	壱通
元禄九年子正月	
一 竹嶋渡海御制禁被 仰出候御奉書写シ	壱通
一 魚鳥口錢取被仰付候節	壱通
一 荒尾近江様より米子御小仕置	壱通
益田村井御両所 <small>江</small> 之御書附	壱通
同年七月	
一 上野從	壱通
宮様より大谷九右衛門家之義	
殿様 <small>江</small> 御頼被為下候節御宿坊	
護法院 <small>江</small> 万里小路民部様より	
之御状	
一 御坊官万里小路民部様より	壱通
一 御太守様より	壱通
一 御坊官万里小路民部様より	壱通
被下候御状	
一 御太守様より	壱通

宮様江御頼之趣被為遊

御承知候旨御口上之趣

御書付ヲ以御差上之御紙面

壱通

5

一 大西淡路守様より被下候御手紙

壱通

一 ○万里小路治部様より同

壱通

一 宮様御言葉被為添候段

壱通

一 御承知被遊候旨御書付

壱通

一 殿様御目見日仰付候節

壱通

一 河村彦十郎様蓮花寺五郎八様より

四通

之御手紙

一 ○御在国之節年頭

三通

一 御目見被仰付候御書付共

一 御時服拝領之節

一 荒尾志摩様より被下御狀

壱通

一 安永五申二月

一 ○四代前九右衛門勝起義

近江様_江御直附申上候_ニ付閉門被

仰付尚又無筋之御願等申上候段為御呵
隱居忤政太郎_江家統被仰付候節之

御書付

壱通

一 ○政太郎江家督相続日仰付并

魚鳥口錢歩割御書附共

二通

一 天明五年三月

一 同人義御両国灘筋干鰯口錢取

奉願上候得共御聞届難被仰付依之以前
三歩口錢取之所此度壹歩御増被下以上
四歩_ニ被仰付旨御書付

壱通

(50)

6 一 右政太郎義ハ三代已前九右衛門と申者ニ

御座候^而御用船相勤候所度々風災

^ニ付御米代等不埒仕候^ニ付年々上納銀

結構御取立被仰付候得共段々不仕合続

^{ニ而}尚又不納仕奉掛御役介候所同人義

相果享和元年酉二月忤藤之丞へ家続

被仰付候節四歩口錢取之内壹歩半御減少

^{ニ而}右之上納年々壹貫五百目宛之分

近江様より御取作廻被仰付旨御書付

壹通

(51)

一 右藤之丞と申者親新九郎幼名^ニ

御座候、同人義文化三年寅十二月右上納

銀最早差別^ニ茂至可申^ニ奉存折柄

壹歩半數年來之御減少^{ニ而}及難渋候

^ニ付、先代之通四歩^ニ為願返シ致出府

嘆願仕候処、其砌御儉約御年限中^ニ付

願之通難被仰付、尤壹歩半替^{ニシテ}

御銀式貫目宛年々被下置追^而

家錄ハ御返シ可被仰付旨御書付 壱通

(52)

一 天明年中以来御両国灘筋干鰯

見改之義奉願候得共重願之儀難被

仰付、依^而坪上山より西出津干鰯改

上守役可被仰付旨深浦御役手付

文政二年卯十一月左之通蒙仰候得共

新九郎義病氣^ニ付御断申上候

右御書付

以上五拾式通

壹通

(53)

前記奉申上候通親新九郎代口錢

式歩半并壹歩半替り年々御銀式貫目

宛頂戴仕来候所四拾三年前亥五月相果候

7

^二付私へ家続被仰付候節、先代之通り

口銭取等其儘_与被仰付候得共其頃ハ魚

鳥座新九郎江諸事御任_{二而}相勤被在候

得共、同人死後私義ハ若年_二付所詮難相勤

何角嘆願仕候処翌月より御直作廻被

仰付尚御時節柄奉恐察、右年々式貫目

宛之分五七年之間差上度奉願四拾余年

差上候義ハ私之寸切_{二茂}御立被下何卒

先規之通口銭四歩_二被仰付候様嘆願

仕居候義御座候

一 四拾三年前亥六月十八日より御一手御直

作廻_二相成候前日迄之魚壳懸ヶ銀

七拾貫目計私方より出銀在之候所御返し_二ハ

不相成及難済候得共兎角御時節柄奉

恐察差控罷在候義_二御座候

一 魚壳捌場之儀往昔ハ下問屋共

店先或ハ四辻_{二而}市ヲ立候所数百人寄

集候事故雪中又ハ雨天杯_二ハ別_而

混雜仕候_二付五拾三年以前當時之魚座

建立之所締合も相立候_二付御直作廻

之節御借入之御沙汰_二付建具疊_二

至迄其佂御用立候所追々相当之御宿

料可被為下旨御内意承居候得共是等

之儀不奉掛御配意成丈修覆相加_ハ

御用_二相立申度奉存候

⑤

一 正徳五末年四代前九右衛門へ魚鳥

問屋被仰付問屋名代之手代ヲ問屋と

致し御用向相勤候旧例ヲ改九年已然

酉十二月忤善右衛門へ問屋被仰付相勤

申上候

8 (白紙)